第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 新材料・新工法（材料）

新材料・新工法（材料）2

座長:毛利聡(土木),金久保利之(建築)
2024年6月27日(木) 10:50 ～ 12:15 第1会場 (小展示室A)

[1354]けい酸塩系含浸材を混入したコンクリートの特性と劣化抑制効果の評価に関する実験的研究

市橋季也[1], 近澤孝哉[1], 河野哲也[1] (1.富山大学)

キーワード：表面含浸材、施工法、スランプ、中性化、圧縮強度

筆者らは，けい酸塩系含浸材を用いたコンクリートの劣化抑制工法として，コンクリート練り混ぜ時に含浸材を混入させる混入法を提案した。ただし，含浸材の混入量がコンクリートの特性に与える影響は，十分に明らかになっていない。そこで，本研究では，混入させる含浸材量をパラメーターとして，スランプ試験，空気量試験，中性化促進試験および圧縮強度試験を行った。その結果，含浸材の量が多くなると中性化の進行が促進され，圧縮強度等の特性に大きな変化が生じた一方，混入量を8 kg/m³以下に留めれば，中性化が抑制され，かつ，コンクリートの諸特性にはほとんど影響しないことが確認できた。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会